

音楽アーティスト科 ギターコース 受講科目一覧 1年次

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間 45分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
講義	一般教養 I	74	2	4
講義	音楽理論/調音 I	74	2	4
講義	音楽史 I	74	2	4
講義	作曲編曲 I	74	2	4
講義	表現 I	74	2	4
実習	歌唱/演奏基礎技術 I	74	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術 I	74	2	2
実習	歌唱/演奏実技 I	74	2	2
実習	分野別実習 I	74	2	2
演習	アンサンブル基礎 I	74	2	4
演習	アンサンブル応用 I	148	4	8
合計		888	24	40

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム/サウンドクリエイター/ヴォーカルパフォーマンス/ダンスパフォーマンス/アーティスト総合/ネットアーティスト				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
授業概要					
<p>社会人として、またエンターテインメント業界を目指す人材として、業界内で必要なコミュニケーション力を身に付けるための授業を行います。コミュニケーション力だけでなく、教養力の深みが芸術創作において多大な影響を与えていくことを把握させ、知識量の増強を図ります。また、一社会人としても人間開発が行えるように広汎な情報を提供します。</p>					
到達目標					
<p>社会人として必須条件である一般教養を身につけ、デビューや就職へ向けた準備を万全にしていきます。 将来どのような職業につくにしても人文科学、自然科学、社会科学の三分野の知識を隔たりなく、幅広く修得することが大事だという前提に立って、教養を学んで、自ら問題設定して新しい答えを探ることができるようにします。 また、知識量を効率化し自分に役立つものだけを取捨選択するといった、幅の狭い世界に陥らないような人材を目指します。 併せて、アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識や情報の提供を行っていきます。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	一般教養についての概略を把握し、教養力の重要性を説きます。また健全な生活リズムの大切さをバイオリズムの仕組みなどを通して理解し、栄養学では食べ物と健康維持の関連性に触れながら安定的な生活を送る上での重要なポイントを学習します。
【前期】 5～8回目	IT技術を通してSNSの長短をはじめとした情報へのリテラシーを学習します。また敬語を通して社会の中でいかに丁寧なコミュニケーションをはかれるかを例題を通して把握していきます。挨拶についてもケーススタディーを通して学びます。
【前期】 9～12回目	プロフェッショナルの定義を通して自らの商品性をエンタテインメント産業においてプロモーションしていく重要性を考えます。各メディア(レコード会社、レーベル、プロダクション(事務所)、音楽出版社)の違いなども認知し、自らにおける将来像の在り方も探っていきます。
【前期】 13～16回目	エンタテインメント産業の構造を理解しながらデビューや自己PRの方法論を解説していくと同時にイベント出演などの方法、また、打合せや企画書制作、プロット制作などを含むステージ作りの具体的なアプローチも学習します。
【前期】 17～19回目	会社構造への理解を深めながら特に会社組織の成り立ちを学びます。その中で礼節に着目し、対人対応の基本である身だしなみ、お辞儀、立ち振る舞いなどを理解していきます。また、社会人として席次や名刺交換のルールにも触れていきます。 ■前期試験:筆記試験にて、前期で学習した内容の理解度を確認する。
【後期】 20～23回目	世界共通語の英語、特に会話に重点を置き日本語圏以外でのコミュニケーション能力のアップをはかります。また、世界地理への知識量を増やしながら国外の風土や文化面などの特色も学んでいきます。
【後期】 24～27回目	日本語に着目し、漢字、ことわざ、四字熟語の読解及び使い方など、また現代文を通しては読解力をはじめ文章構成や言葉の味わいを理解し、総合的に国語力を高めていきます。
【後期】 28～31回目	日本の歴史、古代から近世、現代に至るまで年代順に時代の特色を学び、我々の文化的背景を考察していきます。また日本の暦をはじめ歳時記などの四季の事物や年中行事なども理解していきます。
【後期】 32～35回目	音楽、写真、映像など創作物における、著作権者の権利を保護するために認められた権利関係を創作者と大衆視点の両面から理解していきます。また自分の顔や姿、宣材を無断で写真・WEBなどにコピーされたり、それを商業目的に使用されることを拒否する権利を学びます。
【後期】 36～37回目	人生哲学や人生訓に触れながら、いかに良く生きるかを考えていきます。そしてそれらをスピーチ原稿の書き方やスピーチ論を学ぶことを通して自らの生きがいや夢を掘り下げると同時に、他者へ自らの考えを主張する能力を開発する。 ■後期試験:筆記試験にて、後期で学習した内容の理解度を確認する。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	一般教養は、社会人としての必須条件であり、特に就職希望者にとっては大変重要な知識となります。アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識を習得し、自身の音楽活動に活かしてください。また、音楽業界に求められる人材として自己をアピールできるように、様々な教養を身につけていくことを目的としています。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	セオリー&イヤートレーニング		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽理論/調音 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム/サウンドクリエイター/アーティスト総合				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当	■ 非該当 □
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・ロックバンド「凶鑑」にてドリーミュージックよりアルバムを全国リリース ・FREAK等、アーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン 上記の経歴を活かし、職業として求められる「音楽理論、聴音」の指導を行う。				
授業概要					
一年間を通して、現代の音楽活動・制作に必要な、基本的音楽理論を学ぶ。					
到達目標					
様々なシチュエーションで使われる音楽理論。その理論を基本的な部分から理解し、現代音楽の現場で実際に使えるコミュニケーションのツールとして、自分の知識を形成する。 また、関わる音楽を、より多角的・第三者的に捉えるための判断材料の一環として利用できるようになる。 世の中にある様々な楽曲、サウンドを、土台の部分から理解し、その楽曲のエッセンスを自分の曲やシチュエーションで利用できるようになる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	音高・音名。シャープ系のメジャースケール。
【前期】 5～8回目	フラット系のメジャースケール。調号・キーサイン。インターバル。
【前期】 9～12回目	ダブルシャープ、ダブルフラット。インターバルの作成。トライアド。
【前期】 13～16回目	音符・休符。拍子・拍子記号。
【前期】 17～19回目	マイナースケール、同名調(同主調、パラレルキー) ■前期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	メジャースケールのハーモニー。マイナースケールのハーモニー。
【後期】 24～27回目	ダイアトニックセブンス・コード。キーセンター。コードの転回形。
【後期】 28～31回目	テンションコード。コードのヴァリエーション。コードシンボル。
【後期】 32～35回目	モード。マイナーハーモニーとそのバリエーション。
【後期】 36～37回目	モーダルインターチェンジ。セカンダリー・ドミナント。 ■後期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一見めんどくさいと思われがちな科目ですが、基本が分かれば案外簡単です。深く潜りすぎない、必要最低限な項目をチョイスしたので、しっかり理解して皆さんの音楽に役立ててください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムの歴史と体系		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽史 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・ロックバンド「凶鑑」にてドリーミュージックよりアルバムを全国リリース ・FREAK等、アーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン 上記の経歴を活かし、職業として求められる「音楽史」の指導を行う。				
授業概要					
8ビートや16ビート、ロックやシャッフル等、様々なビートに対応できるようリズムの基礎から学んでいきます。アクセントやクレッシェンド、ダイナミクス記号など、楽曲のアーティキュレーションについても触れていきます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽において重要な要素である『リズム』の基礎を習得する。 ・小節や拍の概念を理解する。 ・楽譜上の記号表記を理解し、沿った演奏ができる。 ・楽譜上のリズムを理解し、表記に沿った演奏ができる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	【Unit1～4】8ビート、カウント、繰り返し記号、リハーサルマーク、ダイナミクス記号、ショート・エンディング、シンコペーション、ロング・エンディング
【前期】 5～8回目	【Unit5～8】ピックアップノート、キュー、勢いづけの16分音符、マイナーブルース、マスターリズム譜
【前期】 9～12回目	【Unit9～12】セクション、リハーサルマーク、リピートマーク、ダ・カーポ、ハーフタイムフィール
【前期】 13～16回目	【Unit13～14】スウィング、シャッフル、ロック・シャッフル
【前期】 17～19回目	【Unit15】スウィング・ビート、ウォーキングベース ■前期試験：課題曲の演奏により「記号理解 / リズム読譜 / リズム / アクセント」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	【Unit16～19】ジャズシャッフル、12/8拍子、ダイナミクス、16ビート
【後期】 24～27回目	【Unit20～23】スロー16ビート、R&B、サンバ、ファンク
【後期】 28～31回目	【Unit24～26】Funky R&B、シャッフル16ビート、レゲエ、後期まとめ
【後期】 32～35回目	【Unit27～29】スカ、ボサノヴァ、セカンドライン、後期テスト
【後期】 36～37回目	【Unit30】年間まとめ ■後期試験：課題曲の演奏により「記号理解 / リズム読譜 / リズム / アクセント」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「記号理解 / リズム読譜 / リズム / アクセント」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	リズムは音楽においてとても重要な要素です。当授業ではリズムの基礎から学んでいきます。リズム感の向上はもちろん、拍や拍子を理解することで他パートとのコミュニケーションがとりやすくなり、アレンジ等をスムーズに進めることにも役立ちます。
備考	使用教科書「Rhythm Reading Workout」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リーディング/ライティング		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	作曲編曲 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・ロックバンド「凶鑑」にてドリーミュージックよりアルバムを全国リリース ・FREAK等、アーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン 上記の経歴を活かし、職業として求められる「譜面の読譜、記述」の指導を行う。				
授業概要					
楽譜の基本や記号、調号など、リーディングの基礎から学んでいきます。五線譜を読んで演奏できる技術を習得します。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜の基本を理解する。 ・読譜の上で必要な知識を習得する。 ・五線譜を読譜し演奏できる。 ・五線譜を読譜、記譜できる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	【Chapter1～6】楽譜の基本、5thポジション①、8ビート、まとめ、リズムギター譜、5thポジション③、タイ・スラー
【前期】 5～8回目	【Chapter7～10】シンコペーション、アンティシペーション、5thポジション④⑤、加線、臨時記号、調号、付点
【前期】 9～12回目	【Chapter11～17】三連符、まとめ、ソングフォーム、シャッフル、アーティキュレーション
【前期】 13～16回目	テストレビュー/前期テスト/【Chapter18】まとめ
【前期】 17～19回目	前期まとめ ■前期試験：課題曲の演奏や楽譜の読み書きにより「読譜 / 記譜 / 演奏力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	【Chapter19～22】記号、読みやすい譜面、読譜、16分音符、16分音符②
【後期】 24～27回目	【Chapter23～28】16分のシンコペーション、合奏～8分の6拍子、コードリーディング～まとめ、テーマリーディング、フェイク
【後期】 28～31回目	【Chapter29～31】7thポジション、コードリーディング②、テーマリーディング②/後期まとめ
【後期】 32～35回目	【Chapter32～35】バツハ/テストレビュー/後期テストコードリーディング③
【後期】 36～37回目	年間まとめ ■後期試験：課題曲の演奏や楽譜の読み書きにより「読譜 / 記譜 / 演奏力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「読譜 / 記譜 / 演奏力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	素晴らしいミュージシャンでも、五線譜を苦手とする人は意外と多く、特にギタリストはTAB譜の方が馴染みがあるためより顕著かと思えます。しかし、リーディングできると演奏や活躍の場はどんどん広がっていきます。当授業では、楽譜基礎の基礎からギターと紐付けて学んでいき、記譜・読譜・初見演奏が出来る様に練習していきます。
備考	使用教科書「Guitar1MR」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ギタースタイル		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	表現 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・ロックバンド「凶鑑」にてドリーミュージックよりアルバムを全国リリース ・FREAK等、アーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン 上記の経歴を活かし、職業として求められる「表現」の指導を行う。 				
授業概要					
<p>様々な音楽スタイル(JAZZ/BLUES/POP/R&B/FUNK/HR等)に含まれるリズム感、グルーブ感、抑揚などを自然に体で表現できるように自らの演奏へ取り込んでいきます。</p>					
到達目標					
<p>様々なジャンルのギタープレイ、特にリズムの特徴などにフォーカスし学習する。代表的なアーティスト、楽曲を知り、題材のバックギングパターンやリフ、フレーズを実際に演奏し自身のスキルアップに繋げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表的なアーティスト、楽曲を知ることにより各音楽ジャンルの特徴を理解する。 ・各ジャンルのノリやグルーブを表現できる演奏を目指す。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	【Rock】ジャンルの考察とフレーズ練習(Deep Purple等)【Punk】ジャンルの考察とフレーズ練習(Sex Pistols等) 【Alternative/Grunge】ジャンルの考察とフレーズ練習(Nirvana等)
【前期】 5～8回目	【Alternative/Mixture Rock】ジャンルの考察とフレーズ練習(Red Hot Chilli Peppers等)【Hard Rock】ジャンルの考察とフレーズ練習(Guns N' Roses等)【Metal】ジャンルの考察とフレーズ練習(Metallica等)【Funk】ジャンルの考察とフレーズ練習(James Brown等)
【前期】 9～12回目	【Funk2】ジャンルの考察とフレーズ練習(Wild Cherry等)【Blues】ジャンルの考察とフレーズ練習(B.B.King等)
【前期】 13～16回目	テストレビュー/前期テスト/【Jazz】ジャズブルース進行
【前期】 17～19回目	【前期まとめ】前期の内容を復習 ■前期試験：課題曲の演奏により「演奏力 / 知識力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	【Ska】ジャンルの考察とフレーズ練習(The Skatalites等)【Raggae】ジャンルの考察とフレーズ練習(Bob Marley等)【Jazz】ジャンルの考察とフレーズ練習(sunny等)
【後期】 24～27回目	【Bossa Nova】ジャンルの考察とフレーズ練習(イパネマの娘等)【Soul】ジャンルの考察とフレーズ練習(Marvin Gaye等)
【後期】 28～31回目	【Smooth Jazz】ジャンルの考察とフレーズ練習(Paul Jackson Jr.等)【Jazz/Fusion】ジャンルの考察とフレーズ練習(Larry Carlton等) / 後期まとめ
【後期】 32～35回目	【Jazz/Fusion】ジャンルの考察とフレーズ練習(Pat Metheny等) / テストレビュー/後期テスト
【後期】 36～37回目	スライドバー/年間まとめ ■後期試験：課題曲の演奏により「演奏力 / 知識力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「演奏力 / 知識力」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	当授業は、様々なジャンルの音楽に触れ実際に演奏することで、自身の演奏・音楽的知識、可能性の幅をどんどん広げていきます。スキルアップはもちろん、今まで知らなかったジャンルを身につけることで自身の活動での演奏、作曲、アレンジにも役立つでしょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムギターバックギンク/カッティング I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	テレビCM「ビブレ」音源制作 ・LA☆CAPE「暗黙の了解」/作曲 また演奏においてはマイク・スターン、マーカス・ミラー、ポール・ジャクソンなど、世界で活躍するアーティストとも共演。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、編曲の技術と知識等」の指導を行う。				
授業概要					
基本的なコードの形から複雑なテンションコード、様々なスタイルのストローク、理論も交えながらコードの基本を学ぶ。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・リズム良くコード進行が弾けるようになる。 ・コード理論を理解する。 ・楽曲においてコード演奏が出来るようになる。 ・楽曲のアレンジ等にコードを利用する。 ・コードの成り立ちを理解することにより、キーの理解、作曲等に応用する。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	オープンコードの理解
【前期】 5～8回目	パワーコード、バレーコードの実奏
【前期】 9～12回目	コード理論、様々なコード進行の理解
【前期】 13～16回目	ブルース進行の運用
【前期】 17～19回目	・トライアドの理解 ・四和音の理解 ■前期試験：課題曲の演奏により「コードフォーム/コード進行の演奏」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	フレットの理解
【後期】 24～27回目	テンションコードの学習1
【後期】 28～31回目	テンションコードの学習2
【後期】 32～35回目	4弦ベースコードの学習1
【後期】 36～37回目	4弦ベースコードの学習2 ■後期試験：課題曲の演奏により「コードフォーム/コード進行の演奏」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「コードフォーム/コード進行の演奏」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	コードをしっかり弾けることはとても大切なことです。ギタリストはソロに注目しがちですが、演奏のほとんどはコードを弾くことです。理論や複雑なコードを学んでいくにつれ、多彩なバックギンクが弾けるようになります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	シングルストリングス&スケール I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・奥本亮、清水麻八子等、アーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・流星群少女、茜つばき、初めてガールズ!、トキライキル等、アーティストのレコーディング時のバックアップミュージシャン その他、ギターに関する教則本やDVDを数多く手掛ける。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、音楽理論、編曲知識等」の指導を行う。				
授業概要					
スケールを理論面、そして演奏技術面から学び、様々な音楽スタイルでのリード演奏、メロディー作り、インプロヴィゼーションの方法論を学ぶ。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・スケールを理論的に把握し、コードおよびコード進行との関係を理解する ・リードプレイに関わる演奏技術を習得し、あらゆる音楽スタイルでの演奏を可能にする。 ・ダイアトニックを中心に構成された音楽上でスケールや演奏法を自身で選択し、ミュージカルに演奏できる。 ・ある演奏内容に対して、最善の演奏法を自身で分析出来る。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	メジャーペンタ&メジャースケール [#1、#3] マイナーペンタ&ナチュラルマイナースケール[#2 & #4] の修得
【前期】 5～8回目	スケールの学習方法とトレーニングアイデア、メジャー&マイナー・トライアドの基礎ポジション修得
【前期】 9～12回目	スケールとアルペジオを融合させる考え方と奏法の学習、コード進行を考慮したインプロヴィゼーション
【前期】 13～16回目	メジャー系#2、#4、#5とマイナー系#1、#3、#5の5ポジションを修得
【前期】 17～19回目	ブルースーナリティの基礎学習、前期まとめ ■前期試験: 課題曲の演奏により「スケールポジション把握 / リズムキープ / 正確なピッチ / 確実な発音」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	ブルースケールとその発展系スケールの学習、ドリアンスケールに関する学習
【後期】 24～27回目	ミクソリディアンスケールに関する学習、ドリアン・ミクソリディアン・ペンタトニック系を融合させた演奏法の学習
【後期】 28～31回目	フリジアンスケールに関する学習、ロクリアンスケールに関する学習
【後期】 32～35回目	各スケール理解度のチェック、使用法の熟成、スケールにまつわるオプショナルな知識
【後期】 36～37回目	総合復習 ■後期試験: 課題曲の演奏により「スケールポジション把握 / リズムキープ / 正確なピッチ / 確実な発音」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「スケールポジション把握 / リズムキープ / 正確なピッチ / 確実な発音」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	私たちが夢になっている音楽、その中でもとりわけメロディーなどを生み出すもとなっているスケール理論を学ぶということは非常に重要かつ有意義です。「なぜこのメロディーに感動するのか?」「なぜこれを聞くと悲しい気持ちになるのか?」「このメロディーはどのようにして生まれたのか?」これらの疑問を解決し理解する手掛かりになるでしょう。またギターテクニクの飛躍的な向上はもちろん、効率的で生産的な練習法も学べます。
備考	使用教科書「Single Strings 1」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ギターベーシック		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏実技 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	ポール・ギルバート、シェーン・ガラーズ、Allen・Hindsとのセッションも経験。中洲jazzやバルーンフェスタ、イスラデサルサ等イベントにも多数出演。デヴィッド・ボウイなどのアーティスト写真を撮った写真家鋤田正義氏の写真展でのBGMにギターでの参加するなどアート方面での音楽でも活躍。上記の経歴を活かし、職業として求められる職業として求められる「演奏実技」の指導を行う。				
授業概要					
ギター演奏に必要な音楽の構造理解を促し、演奏の基本となる技術習得をはかる。					
到達目標					
指板上の音程 / チューニング / 音符・休符の種類 / 記号の名称 / インターバル(Interval) / ローコード / コード・フォームの仕組み / コードフォームと度数関係 コードの構成音 / 構成音を単音で弾いてみよう / デミニッシュ・セブんとオーギュメント / 調性について / 各 Key の調号 / 平行調と同主調 / スリー・コードを覚えよう コード機能 / ダイアトニック・コードと機能一覧 / ケーデンス / ドミナント・モーション / 代理コード / クリシェとペダル・ポイント / スケール理解 / メジャー・スケール / ナチュラル・マイナー・スケール / ハーモニック・マイナー・スケール / メロディック・マイナー・スケール / ペンタトニック・スケール 運指練習 / フレーズ練習 / リズム・トレーニングなどAtoZで初歩から応用まで「ギター」理解。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ギターという楽器の特性理解。コード譜を見て曲を追うトレーニング。指板中の音を覚える フィジカルの基礎練習
【前期】 5～8回目	譜面の見方、音符や休符理解促進。バックিং/カッティングスタイルを把握し、リズムについての基礎・また練習のやり方を学ぼう
【前期】 9～12回目	コード理論の把握し、それらを応用してコードフォームや進行を覚える。
【前期】 13～16回目	コード譜を見て実際にコードを弾いてみよう・また右手のストロークの基本を学ぼう1 コード譜を見て実際にコードを弾いてみよう・また右手のストロークの基本を学ぼう2
【前期】 17～19回目	ブルースのコード進行でセッション出来るようにしよう・ペンタニックについて1 ブルースのコード進行でセッション出来るようにしよう・ペンタニックについて2 ■前期試験:基礎理論の把握/技術習得
【後期】 20～23回目	スケール理解及びトライアド・四和音のコードのボイスングについて1
【後期】 24～27回目	スケール理解及びトライアド・四和音のコードのボイスングについて2
【後期】 28～31回目	スケール理解及びトライアド・四和音のコードのボイスングについて3
【後期】 32～35回目	ハーフタイムシャッフル・スウィングといったリズムについて1
【後期】 36～37回目	ハーフタイムシャッフル・スウィングといったリズムについて2 ■後期試験:オリジナル楽曲の制作により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ギターという楽器の特徴を理解、またベーシックな知識や技能は演奏する上での土台になります。知識理解と技能習得を着実に進めていきましょう。
備考	参考図書「Guitar Basic1」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムリーディングワークアウト		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	テレビCM「ビブレ」音源制作 ・LA☆CAPE「暗黙の了解」/作曲 また演奏においてはマイク・スターン、マーカス・ミラー、ポール・ジャクソンなど、世界で活躍するアーティストとも共演。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「アンサンブル基礎」の指導を行う。				
授業概要					
「リズムの歴史と体系」で学んだ様々なリズムパターンを実際にアンサンブル形式で練習していきます。よりリズムに特化し、セクションごとの確認やメトロノームの使用で細かくチェックしていきます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽において重要な要素である『リズム』の基礎を習得する。 ・ベースやドラムの音をよく聞けるようになる。 ・リズム感の向上。 ・ベースやドラムの音を聞き合わせるができる。 ・バンド全体で一つのグルーブで演奏できる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	【Unit1～4】8ビート、カウント、繰り返し記号、リハーサルマーク、ダイナミクス記号、ショート・エンディング、シンコーション、ロング・エンディング
【前期】 5～8回目	【Unit5～8】ピックアップノート、キュー、勢いづけの16分音符、マイナーブルース、マスターリズム譜、
【前期】 9～12回目	【Unit9～12】セクション、リハーサルマーク、リピートマーク、ダ・カーポ、ハーフタイムフィール
【前期】 13～16回目	【Unit13～14】スウィング、シャッフル、ロック・シャッフル
【前期】 17～19回目	【Unit15】スウィング・ビート、ウォーキングベース ■前期試験：課題曲の演奏により「リズム / アクセント / ダイナミクス / コミュニケーション / チューニング」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	【Unit16～19】ジャズシャッフル、12/8拍子、ダイナミクス、16ビート
【後期】 24～27回目	【Unit20～23】スロー16ビート、R&B、サンバ、ファンク
【後期】 28～31回目	【Unit24～26】Funky R&B、シャッフル16ビート、レゲエ、後期まとめ
【後期】 32～35回目	【Unit27～29】スカ、ボサノヴァ、セカンドライン、後期テスト
【後期】 36～37回目	【Unit30】年間まとめ ■後期試験：課題曲の演奏により「リズム / アクセント / ダイナミクス / コミュニケーション / チューニング」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / アクセント / ダイナミクス / コミュニケーション / チューニング」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	同じビートであっても、打ち込みやメトロノームの場合とバンドで演奏する場合では全くノリが変わってくるものです。当授業では、学んだリズムを実際にアンサンブル演奏していきます。他パートと合わせて初めて完成するグルーブを感じて習得していきましょう。
備考	使用教科書「Rhythm Reading Workout」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブ実習 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル応用 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	8単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	ポール・ギルバート、シェーン・ガラーズ、Allen・Hindsとのセッションも経験。中洲jazzやバルーンフェスタ、イスラデサルサ等イベントにも多数出演。デヴィッド・ボウイなどのアーティスト写真を撮った写真家鋤田正義氏の写真展でのBGMにギターでの参加するなどアート方面での音楽でも活躍。上記の経歴を活かし、職業として求められる職業として求められる「アンサンブル応用」の指導を行う。				
授業概要					
課題曲を用いて、バンドアンサンブルに必要な知識と技術、また優れたライブパフォーマンスを実現するためのメソッドを学ぶ。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・バンド全体のサウンドを意識した演奏を習得する。 ・シチュエーションに応じた適切な演奏とふるまいを身につける。 ・本番ステージに向けた意味のあるバンドリハーサル方法を理解する。 ・自身の演奏のみに集中することなく、全体の演奏状態をリアルタイムで把握しながら最善のアンサンブルを作ることができる。 ・観客やステージを意識した演奏状態を作り、本番ステージに直結したアンサンブルを行うことができる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	バンドアンサンブルでの演奏に慣れ、自身の担当楽器の役割を理解する
【前期】 9～16回目	リズムやタイムを音楽的にコントロールし、休符をしっかりと意識したリズムワークを身につける
【前期】 17～24回目	ステージでライブをしていることをしっかりと認識し観客をイメージした演奏を心がける。周りのパートをよく確認し、統一感のあるアンサンブルを目指す。
【前期】 25～32回目	ワイルドさ、ファジーさを伴いながらも整った演奏を目指す。音価を意識した演奏を学ぶ。
【前期】 33～38回目	ここまでの課題曲で学んだことを全て取り入れ、理想的な演奏を目指す。 ■前期試験：課題曲の演奏により「サウンドメイク / 表現力 / アンサンブル力 / 演奏時の視野確保」の到達度を確認する。
【後期】 39～46回目	音作りをアンサンブルの重要な一要素として捉え、適切な機材セッティングを分析する。
【後期】 47～54回目	自身の担当楽器以外のサウンドの質を理解し、総合的なアンサンブルをイメージし演奏力の向上をはかる。
【後期】 55～62回目	タイムやダイナミクスを意識し、有機的で生き活きとした演奏を目指す。
【後期】 63～70回目	演奏クオリティを保ちながらステージングなどのパフォーマンスも意識し、聴衆に何を届けたいかを考えたライブアンサンブルを目指す。
【後期】 71～74回目	年間総合復習 ■後期試験：課題曲の演奏により「サウンドメイク / 表現力 / アンサンブル力 / 演奏時の視野確保」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「サウンドメイク / 表現力 / アンサンブル力 / 演奏時の視野確保」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アンサンブルとは、単純に各楽器が集まって好きに音を出し合った結果ではなく、もっと綿密で計画的に混ざり合っており、そこにダイナミクスやストーリーが存在します。自身のアンサンブルのイメージをより高め、それらをステージ上で観客に思い通りに届けるための実践方法を磨きましょう。
備考	